

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

よこはま地域福祉研究センター

②施設・事業所情報

名称：パレット保育園大倉山	種別：認可保育所	
代表者氏名：北村 来也	定員（利用人数）： 80 名	
所在地：〒222-0001 横浜市港北区樽町1丁目13-3		
TEL：045-859-9149	ホームページ：http://p-hoiku.com/	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2018年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社 理究		
職員数	常勤職員： 19 名	非常勤職員 7 名
専門職員	保育士 20 名	栄養士 1 名
	調理員 3 名	
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	保育室：6室	事務室、倉庫、相談室、プレイルーム、トイレ、ロッカールーム

③理念・基本方針

保育理念

- ・ひとりひとりを「大きな家」の一員として認め、役割を認識させ、愛情を持って育てます
- ・ひとりひとりの子どもを見極め、発達段階に応じ、「感性・知性・体力を培う」三位一体のバランス保育・教育を信条として育てます
- ・ひとりひとりが意欲的な生命力を発揮できるよう「自立と自尊と自律」の精神を大切に育てます

④施設・事業所の特徴的な取組

- ・保育理念に掲げている「感性を磨き、知性を育み、体力を養う」三位一体のバランスの取れた保育を目指しています。
- ・年齢や発達段階に応じた独自のカリキュラムや教材を開発し、子どもたちの能力を最大限に引き出せる能力開発プログラムを取り入れ実践しています。
- ・幼児は縦割り保育を中心におこない、保育理念である「大きな家族」をより身近に感じ、より深い絆になれるよう日々の保育を大切にしています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2020年 6月 9日（契約日） ～ 2021年 3月 4日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	回（ 年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

◆縦割り保育を取り入れ、子ども同士で育ち合う関係を育てています

保育理念にある「大きな家」の具現化として3・4・5歳児は縦割り保育を取り入れ、3つの縦割りクラスを作り日常的に異年齢で過ごしています。園独自のパレット学習タイム以外の活動は異年齢で行い、年齢ごとの課題も取り入れるようにプログラムを工夫しています。一緒に活動する中で年長児は自覚を持って年下の子どもをリードし、3・4歳児は先への見通しを持ちあこがれる気持ちが育っています。自由遊びでは、年齢に関係なくそれぞれの子どもが自分の好みや関心に沿った居場所を見つけることができている、子ども同士で育ち合う関係ができています。

◆職員のライフワークバランスに配慮しています

職員がプライベートの充実を図った上で仕事をしていけるようライフワークバランスの充実に力を入れています。施設長は、副施設長と連携して毎週末のミーティングや日々の職員との会話、個人面談などで職員とコミュニケーションを多くとり、職員の心身の状態や家庭の状況、意向の把握に努めています。家庭との両立を図れるようシフトは固定としていますが、要望があった日には休暇を取れるように、1か月の予定表を作ったり、15分単位でシフトを作るなど様々な工夫をし、働きやすいよう環境作りをしています。

◆保護者への発信を積極的に行うことで、保護者との信頼関係を築いています

朝夕の登降園時には保護者とコミュニケーションを取り、子どもの様子について保護者と情報交換しています。全クラス保護者向けアプリを用い、保護者と密に連絡を取れる体制を築いていて、乳児は毎日、保護者と子どもの様子について情報交換しています。日常の様子は玄関のボードで知らせていますが、1、2週間に1回活動時の写真を全クラス配信しています。毎月、園便り、クラス便りを配信するほか、給食の人気メニューの動画配信もしています。新型コロナの登園自粛期間には、クラスの朝の会や帰りの会の様子を配信したり、子どもが家でできる製作の動画を配信してキットを送付したり、園独自の「パレット学習タイム」を配信するなど、積極的に保護者に発信しました。また、WEBでの懇談会も実施しています。このような取り組みの結果、今回の保護者アンケートでも高い満足度となっています。

◇改善を求められる点

◆全職員で振り返る時間を作るなど質の向上に向けて取り組んでいくことが期待されます。

開園してからの3年間、園の基盤作りに力を入れてきて、園独自の乳児のグループ保育、幼児の縦割り保育などを始めています。毎週のミーティング、毎月の職員会議で子どもの様子について情報交換していますが、全職員で保育の実践が理念に沿って行われているか振り返りをする機会を改めて作ることはしていません。子どもからの声を保育内容や行事に取り入れていくなど、さらなる保育の充実を図るためにも、保育の振り返りを全職員で行い、職員が主体的に質の向上に向けて取り組めるような仕組みを作っていくことが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設長として第三者評価を何度か受けた経験はありましたが、市のものから、県の規定になったことでの不安感は多少なりともありました。

ですが、体感としてほとんど変わりなく違和感や、やりにくさなども感じませんでした。コロナの影響で説明もZoomで対応していただけるなど、細やかな対応だったと思います。

評価項目の文章の捉え方には相変わらず難しさは感じ、業界全体の課題なのかと感じています。

⑧第三者評価結果
別紙2のとおり